



脱酸処理済

印
度
及
其
他

漫遊記程

中井弘著

中卷

504
M94

504
M94

武藤文庫

和字内

取替吊

摩成與

碁坊文



木郎嘉平

餘

交中。胆謀名落。識見卓越。首推櫻洲山人。常語余曰。吾耽書好湯游。漢西諸籍莫不涉。足跡殆遍于天下矣。頃讀其所著漫游記。凡所經歷山川都邑。政事風俗。記述詠詠。巨細無遺。而於治亂盛衰。所由物產民業。所關實致。高焉。嗚乎。山人於此。造耽也。山人於

游。非徒漫也。豈不落落之胸。卓越見
觸境感遇。發為壯快之文。舊乃拔
之詩。古人所謂大丈夫看破夢卷
書。跋涉萬里路。余於山人乎觀之。
人若不信家言。請繙此書。
明治丁丑冬十二月於滬青霄之
流霞樓上 一山居士候題



木郎嘉平筆

漫遊記程卷中

成島柳北 評點 櫻洲山人著
依田百川

十一月廿六日ノ早天子倫敦府ノ寓居ニ於テ世人
ノ耳目ヲ一新シ驚クヘキ報知ヲ得タリ即チ英國
政府ハ突然埃及王ヨリ彼ノスイス運河ノ「セーヤ
ル株部割」ヲ代價我金貨ニシテ貳千萬圓ニ買ヒ受
タリ此金ヲ拂入ルハ有名ナル富商バロシロス
チールド社中ニ下命シ埃及政府ニ拂渡スヘキニ
決定セリ抑々如此處置ニ於テ世人ノ最も關心品

百川曰是
蓋有成竹
於胸中者
非埃及王
之比也

評ヲ費スハ勿論ニテ近來著き大事件ト云フ
ヘシ右ノ如キ處置ハ曾テ英國政府ハ敢テ成サレ
ハ果斷ニシテ世人大ニ喫驚スルハ論ヲ待タス此
度ハ處斷ハ太政大臣ヂスラリト氏ハ深慮ニ出
モハト知ルヘシ

一現今土耳其國東方ノ諸國ハ殊ニ危殆ニシテ政
治理財等ノ方法其當ヲ失ヒ人心常ニ穩カナラス
故ニ東方ノ形勢此后ノ結局如何ニ注目シ現今東
方ノ事件ニ關係セサルノ良策ニ如カスト思フ外
此度英政府ハ斷然ト彼東方ニ着手セシハ真意

外ノ所為ト謂ハサルヲ得ヌ又世人ノ品評辨説ヲ
費スモ又怪ムニ足ラサルヘシ

一ヂズレリー氏カ此度ノ明斷ハ著シク其効驗ヲ
顯ハセリ全體英政府ハ如此非常ノ事ヲ行ハント
欲スルニハ先ツ内閣議官ノ熟議ヲ經テ更ニ之ヲ
議院ニ出シ其決議ニヨリテ施行スヘキ定則ナル
ニヂズラリー氏ハ議院ノ開クヲ待ス又他ノ意見
ヲ問フヲ用ヒス斷然其事ヲ行ヒタレハ此事件ハ
暗ニ一般人民ノ意見ニ符合セシノミナラス議員
モ亦異議ヲ生オルモノヲ却テ其斷ヲ賞賛シ

更ニ人氣ニ抵觸セザリシナリ
一今朝始テ右ノ報知ヲ得ルヤ否實ニ世人ノ眠ヲ
覺スノミナラス兼テ英政府ハ東方ノ國事ニ關涉
シタルヲ一般ニ見認メタルニ至レリ
一此緊要ノ事件ヲ成スノ原因ハ世人ノ曾テ知ル
所ナリ英政府ハ能此好機會ニ投シタリト云フヘ
レ抑々埃及王^{イスメー}第四世曾テ聰明仁義ノ主
ト唱ヘラレ其事業ヲ興スノ際ニ當リ勉テ進歩ヲ
急キ國財ヲ濫用シ終ニ全國ノ貧困ヲ來レ目今會
計上ノ大難澁ヲ釀成セリ

一埃及王ハ是マテ政務上常ニ苛政ヲ極メ人民日
用家産及ヒ會計上ニモ關涉シ人民其繁劇ニ堪
サルヲ多カリシモ畢竟人民ノ性質從順ニシテ敢
テ政府ノ處置ニ反戾セザリシカ故ニ此一種苛察
ノ政術ヲ施シ得タル者ト云ツヘレ如此國力ニ應
セサル事業ヲ漫ニ政府ヨリ行ヒタル宿弊ハ依然
トシテ今日ニ存シ僅ニ四百萬ニ足ラサル人民ニ
シテ此ノ非常ノ負債ヲ受ケ得テ始終寧歲ナキハ
嘆ヲ發スルモ實ニ偶然ニテザルナリ
一埃及王ハ數多ノ宰臣補佐^{各般ノ事業}

百川口政
治民力相
阻隔果如
此豈謂文
明開化之
業即然哉
其稱爲事
業者徒兒
戲耳

ヲ創建シ財理上人困難ヲ成セシモ今日マテ
顧慮セサルモ如シ埃及國ノ諺ニ實際無量ノ
財産ハ我國ニ所有ス云々云ハル哩俗ニ唱ヘタル
話頭ヲ深ク信據セルカ如シ然モ埃及國ハ政府及
人民ノ次第ニ開化ニ進歩スル甚迅速ニシテ近來
ニ至リテモ其事業見ルヘキ者多シ故ニ政治民力
相阻隔シテ終ニ他國ノ救助ヲ仰カサルヲ得サル
ニ至レリ

查勸自守
足以有爲
矣豈借他
人力以集
事哉是所
以日也

ノ道ヲ思考セシニ果シテ彼ノ有名ナルレセツブ
ス氏ノ創業セシイス運河ヲ以テ自己ノ寶庫ト
秘藏セシモノモ今日ニ至リ終ニ抵當物トナシ其
株切手ヲ英政府ニ賣渡シ意外ノ切迫ヲ補ヒシヲ
實ニ埃及國ノ為メニ惜ムベキ下策ナリト謂サル
ヲ得ス此運河總入費ハ英貨一千七百五十一萬八
千七百二十九磅ナリ

一埃及政府ハ會計上ノ困難ニ苦ミ英政府ニ乞フ
テケール氏ヲ聘シ會計ノ監督ヲ委托セシニ其効
ナキヲ以テ又カイルソン氏ヲ聘シ之ニ代ラシ

ノントセリ此困難ヲ補ヒ缺乏ヲ充ニ至ツテハ
最モ艱レト云ハシ

一埃及政府ハ自己ノ會計ヲ挽回セント苦心焦慮
セシニ終ニ良策ヲ得サリシカ風ト彼ノ運河ヲ以
テ金貨ニ換ルノ方法ヲ思ヒ修キ此賣却ノ舉ニ及
ヘリ此運河ハ久シク世人ノ希望セラル通リレセツ
プ氏カ學問上ノ工夫ニヨリ成就シタル世界ニ比
類ナキ大土工ニシテ亞細亞歐羅巴ノ通路ヲ開キ
東洋ト西洋トノ交際大ニ進歩シ物貨融通遠近來
往ノ便益ハ勿論人種ヲ交換シ氣脈ヲ通スル等總

テ后来ノ繁榮人民ノ幸福是ヨリ大ナルハナカル
ヘシ

一埃及政府ハ此二週間前ニハ此運河ヲ以テ他ニ
抵當物トシ金ヲ募ルカ又ハ他ニ賣渡サンカノ評
議アリシ時此運河ノ株ヲ斷然買求スル者必ス英
國政府ナラントノ風聞ヲ夙ニ傳知セシカ今日此
舉ニ及ヒシハ偶然ニアラサルナリ

一此運河ニ付費シタル金額ノ數ハ前文ニ述ヘタ
レ其施設ノ方法ハ今茲ニ贅セス此採部分ノ數
四十萬ニシテ歐洲各國モ亦不鮮ナリ然レ英

國尤モ其魁タリ

一埃及政府ハ前キニ此運河ノ工ニ付佛國ニモ計
リタリトノ風説アリシカ其事行ハレスレテ英政
府ニ賣却セシハ埃及國ニ於テ障碍ナキヲ論ヲ待
タス却テ自國ノ為メニ大ナル利益ナリト云フヘ
シ

一前文ニ述タル如ク此運河ノ株數四十萬アリ其
内十一萬七千ノ株ヲ埃及政府ニテ所有シ之ヲ英
政府ニ賣却セシナリ此運河ノ事ニ付英政府ハ其
適當ナル后来ノ處置方法ヲ議定セント欲スルニ

ハ到底議院ノ決議ヲ要シ至當ノ事業ニ着手スル
ハ勿論タリ且此運河ノ株主ハ英政府ヲ以テ第一
ト稱スヘキナリ

一此運河ヲ買入タル金額ハ頗ル巨大ニシテ歐洲
富強ノ國ニテモ容易ニ出シ得サルモノナレバ英
政府ハ後來ノ利益ト繁昌ヲ算計シテ一時果斷ノ
處置ヲ施シタルモノト云ヘシ

一英政府カ突然此運河ニ着手セシ者ハ貿易上ノ
便利ノミニアラスレテ專ラ政務上ニ關涉シタル
トト世人想像スルモノ多シ

一英政府ハ兼テ自己ノ目的ヲ達スル爲此運河咽喉ノ地ヲ扼シタルニ相違ナシ今日ノ政術上ヨリ想像ヲ起ス時ハ則チ其目的ノ端緒ヲ開キタルカ如ク思考セリ

一埃及政府ハ英政府ト從來ノ交際親睦ナレ現今土耳其國ノ内亂ニ付世人后来ヲ慮リ日々評論ヲ費スニ至レリ

一土耳其國ノ一揆ハ第二十一二號等ニ報告ヤシ如クヘルリコウ井ナ州ノ人民多年回教政府ヲ指ス耳其政府ノ苛虐ニ苦ミ機會ヲ得テ此宿怨ヲ晴サ

シヲヲ思ヒシニ此度終ニ此暴舉ニ及ヒタレハ速ニ平定スルヲ甚タ難カルヘシ此一揆ハ隣國ハ魯澳伊ノ煽動ニヨリ起レルモノト認マル時ハ自國ノ内亂ヨリモ一層土耳其國ノ爲メニ大患ト云フヘシ

數日以前太政大臣ヂズラリイ氏ハギルトホールニ動市中ノ集會所ノ集會所ニ於テ東方ノ事件ニ付肝要ナル演說ヲナセシ以來世上不穩ノ風說道路ニ横ハリシカ案ニ違ハス英政府ハ運河ニ着手セシヲ以テ世人ハ漫ニ想像ヲ興シ英政府ハ土

耳其ニ關涉セルト疑ヒヲ生スルニ至レリ
右ノ如ク諸說紛紜トシテ一時騷然タリレモ我輩
ノ考慮ニテハ英政府ノ此度ノ舉ハ東洋西洋トノ
貿易通商ノ繁昌ヲ勸メタルノミニシテ決シテ政
務上ニ付テノ關係ナレト証スヘシ
一 各國ノ船舶スイス運河ヲ通行スル其數四分ノ
三ハ英國ノ船舶オレハ其噸税^{トナリ}ノ高モ英國尤其魁
タルヲ見ルヘシ予カ乘リシ英ノ郵船ビンドスタ
ン號ハ三千噸ナリシカ運河通行ノ税一千百三十
ポンドヲポルトサイド港ニ拂入レタリ

一 英政府ハ埃及國ヲ侵略スルノ意ナキノミナラ
ス又他ノ國郡ヲ領略スルヲナカルヘシ即今ノ藩
屬地ヲ以テ十分満足スルカ如シ
一 埃及政府ハ第一世拿破崙カ往昔侵略セシ時ニ
當リ英政府ハ其救助ヲナシ佛軍ヲ追攘シ埃及國
ヲシテ本領安堵セシメタルノミニシテ今日ニ至
ルマテ此意ヲ變更スルヲナカリシ
一 英政府ハ此運河ニ關係スレモ埃及政府ノ政今
尼羅河近傍ヲシテ能ク安寧ナラシメハ決テ埃及
ノ内事ニ干涉スルヲナク依然トシテ兩國互ニ親

和ノ表スルノ疑ヒナレト思ハル數年前キ運河着手ノ一ニ付英太政大臣ロルドハームストン氏ハ大ニ運河墾破ノ業ヲ妨ケ且ツ各國モ又人氣ヲ失レ運河穿破ノ効ヲナスニ違アラサリシ然ルニ此度成業ヲ幸ヒトシ此株高ヲ買取ル舉ニ及ヒレハ其政術ノ反覆常ナラサルヲ駁スルモノアリシ此運河買入レノ一ハ歷山岡士スタンボーフ氏英岡士電報ニテ僅ニ二十四時間ヲ以テ内閣ノ秘密會議ニテ決定セリ

一千八百七十三年フールマン條約土耳其書中ニ

允許セシ如ク將來埃及ニハ特別ノ權ヲ與ヘ他ノ外國ト結約スルノ權利ヲ有セシメタリシ後埃及國ハ本國土耳其ノ保護ヲ仰カスレテ其職分ヲ盡シ各般ノ事業進歩スルニ付我輩ハ此他ニ妄リニ變更スルヲ好マスト雖凡萬一内國ノ奸黨暴起スルカ又ハ外國ノ襲撃ヲ受ルノ危難ニ至ル時ハ英政府ハ從來ノ交誼ニ基キ之ヲ保護挽回スルノ手段ヲ用ルヲ固ヨリ論スルヲ待ス暗ニ魯澳蓋シ英政府ハ土耳其國ヲ補助スルノ心アルハ我輩モ之ヲ保証シ得ル處ナリ

一 后来此運河ヲ以テ英國ノ所有トナセル時ハ其利益タルヤ明ニシテ其餘澤ヲ延テ埃及人民ニ及ヒ暗ニ埃及内國ノ會計ヲ助ケ物産ヲ繁殖セシメ一般經濟上ニ付テ人民ヲ誘導シ此卑屈ナル人民ノ氣象ヲ奮起シテ彼ノ壓制下ニ束縛サレタル人民ニ自由ノ權利アルヲ理會セシメントノ主意ナルヲ瞭然タリ。

一 土耳其國ノ現状ハ予カ見ル處ニヨレハ此度ノ一揆ハセルビヤ、モント子グロ、ボルカリヤノ三州ニ波及シ終ニ魯西亞ノ術策ヲ成長セシメ以テ埃

獨ノ關係ヲ醸出スルヲ疑ヒテ容レス且ツ英ノ此運河ニ着手シテ禍亂ヲ未萌ニ制セントスル其老練ノ政術ヲ窺フニ足ルノミ即國ノ強盛ハ民ニヨル民ノ強盛ハ心ニヨル心ノ強盛ハ格物究理ニヨル夫レ格知ノ學ハ人心ノ昏迷ヲ除ク所以ナリ人心昏迷ヲ去レハ見識明瞭成リ見識明瞭ナレハ事物ノ道理ニ明カナルヲ以テ此ノレセツブス氏ノ忍耐能ク此大土工ヲ成就シ彼有名ナルモンセニ一ノ隧道^七里^{ロツキ}山ノ鐵路^{ハ三千五百里}亞^ア陀^タ蘭^{ラン}海ノ電線ト共ニ世界ニ比類ナキ公益ヲ興セシナリ

十日朝餐後馬車ヲ命ミ南方ノ郊外ヲ巡覽シ埃及
王ノ離宮ニ達セリ道路平坦馬車ヲ走ラスニ便ナ
リ途上各所兵營ヲ新築ス其宏壯ナルヲ見テ費額
ノ夥多ナルヲ想像スルニ足ル兵士皆軀幹短小ニ
シテ黒質ナリ此地氣候溫熱ナルヲ以テ軍服ハ白
木棉ヲ用フ士俗所ヲ擇ハス大小便ヲナス不潔甚
シ離宮ヨリ數里左右綠樹森々トシテ炎熱ヲ遮リ
賴リテ爽快ナルヲ覺エ小村ノ傍ニ大石柱ノ花剛
石ニテ造レル四角ノ塔アリ巴里斯佛蘭ノゴニコ
ルド街ノ大石柱ト略同シ又村外ニ大樹アリ數千

年ノ物トイフ探古ノ客來リ見ルモノ多シ又轉シ
テ驢馬ニ乘リ城内ノ大寺院及ヒ離宮ヲ縱觀セリ
此地一帯ノ丘陵上ニ在ルヲ以テ眺望甚佳ナリ尼
羅河ハ府ノ中央ヲ横斷シ府内ノ人家一隅中ニ在
リ寺觀尖塔其間ニ突起ス又府外數里ヲ隔テ彼ノ
石塔ヒラミントノ高ク空ニ聳ルヲ望ム石塔大小九ツアリ其
最大ナルモノ三ツアリ地勢平行一點ノ山岳ヲ見
ス只雲海茫茫際涯ナキヲ望ムノミ歸途雜貨店ヲ
經過ス此小街土人雜沓各程ノ雜品ヲ鬻ク店鋪皆
宛モ我神明前心齋橋等ニ同クシテ不潔ナリ又轉

清遠詩集

レテ雜貨店街アリ歐人賃居レテ歐品ヲ賣ル所
ナリ夜來食了ツテ花園ヲ歩得ス園中熱帶中ノ草
花奇異ノ狀ヲナシ中央ニ倚子數百脚アリテ客々
小憩ニ供シ兵隊ノ音樂ヲ奏スルアリ土人男女雜
沓シテ歌舞彈弦スル狀歐洲ト大ニ其趣ヲ異ニシ
一種ノ風俗以テ竟日ノ旅況ヲ慰スルニ足レリ
十一日埃及王ノ離宮ニ赴ク

奇花珍草競芳英。游客幾羣聯袂行。求食猛獅時怒
吼。滿園禽獸寂無聲。苑中情景寫得逼真

朝餐後第七時半米人三名魯人一名ト共ニ馬車ヲ

百川曰尖
塔實宇宙
間無比奇
物人々皆
能知之而
其能遊騰
者幾人壯
我遊也健
美健羨

命シナイル河ノ鐵橋ヲ過キ大石塔ヲ見ント欲シ
行程我三里許ヲ走ル道路平坦ニシテ左右ノ樹木
蔭翳シ四面ハ千里ノ田畝ナリ石塔ハ沙漠ノ丘陵
上ニアリ皆巨大ノ方石ヲ以テ疊積セシモノニシ
テ大ナルモノ直立四百尺ニ過ク中央ニ穴アリ葡
萄シテ入ルヘシ別ニ二箇ノ大石塔アリテ小ナル
モノ數フルニ違アラヌ是レ古昔國王ノ墳墓ニシ
テ四千年ノ風霜ニ消磨セスレテ依然今日ニ存ス
當時ノ盛大ヲ憶想スヘシ歐洲探古ノ客冬時ハ此
地ニ寄寓シ其千載ノ事蹟ヲ攷究記載スルヲ事ト

曼特已呈

十二